



●第280回●

## 「1人暮らしあんしん電話」 が松戸市で公認されました

松戸市医師会  
どうたれ しんじ  
堂垂 伸治 先生

(「松戸市医師会報」2015年7月号より転載)

### <はじめに>

1人暮らし高齢者は、2011年(以下、西暦)に全国ですでに500万人(世帯)で、35年には1.5倍の762万人に増え全世帯の約2割に達すると言われていています。これはくしくも認知症の人数と同数で、今後さらに大きな社会問題となります。

人口48万人の松戸市では高齢化率は23.9%(15年3月末)です。そのうち「1人暮らし高齢者」が約2万人で、「認知症の人」も約2万人、「1人暮らしで認知症の高齢者」が約2000人と推定されています。現在松戸市の小学生総数は約1.3万人ですので、これらの人数の多さがわかって頂けると思います。

そして松戸市での「孤独死」はこの間毎年150人以上に達しています(図1)。

### <「1人暮らしあんしん電話」とは>

私は常盤平地区高齢者支援連絡会専門部会

に04年から関わって来ました。この会議での対応困難事例の半数が独居高齢者でした。この状況に「何とかうまい方法はないか」と考え、「1人暮らしあんしん電話」(以下「あんしん電話」)を開発・実践してきました。

「あんしん電話」のシステムは、以下の通りです。

診療所に設置したパソコンに発信者(診療所側)の音声を録音しておきます。パソコンは対象者(患者さん)と毎週1回予め約束した日時に自動的に電話をかけます。対象者プッシュホン式電話で、「問題なし」の場合は「\*→1」を、「体調不良」の場合は「\*→2」を、「要連絡」の場合は「\*→3」を押します。「応答なし」や「話中」の時は、翌日の同時刻に再度自動的に電話されます)

対象者からの応答結果はパソコン画面に一覧で表示され、診療所側は、朝・夕の2回チェックします。「応答結果一覧」はエクセル仕様ですので、ひと目で全回答を知ることができます。安否確認をする側の「手間が省け」、対象者もプッシュホン式電話のボタンでの返答なので、「気兼ねせず」回答できるシステムです。(携帯電話も対象可能です)

システムは、ソフトが入ったパソコン本体と操作のノート・パソコンで構成され、ISDN回線を使用していますので、いわゆるウイルス感染のリスクもありません。このシステムでは、電話の対象者には受信した際の金融負担はゼロです。発信する診療所側ではISDN回線料と電話代で100人相手でも月1万円以内で済みます。(別途連絡する際の電話料金は発生します)

年 (西暦)	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14
孤独死 (人)	72	101	111	110	155	118	135	169	189	179

図1

この種の機器として他に「緊急通報装置」があります。しかし、これには多大な税金が投じられており費用対効果が悪く、かつ「非課税世帯」だけが対象です。一般住居に導入するには月額数千円かかるというものです。

### <「あんしん電話」の成果>

私は、08年3月から「あんしん電話」を、「当院通院患者さんで1人暮らしの方」を対象に実践して来ました。本システムは、09年9月には「おたずねフォン」として製品化され、14年11月以降は「あんですフォン」として大量生産可能となっています。

パソコン画面で「体調不良」や「要連絡」の人にはその都度対象者に当院事務員が別途適宜電話連絡しています。診療所の事務員レベルで殆ど対応可能で、医師や看護師が関わる必要があることは稀です。このシステムは、安否確認のみならず、病状等の悪化をいち早く把握できますので、いわゆる「孤独死」の予防にもなります。開発以来、本システムに

入っている方で「孤独死」はゼロでした。

### <松戸市での進展—地域住民自身の活動と医師会員の協働>

09年末から新聞各紙で報道され、その後NHKやTBSテレビ・ラジオなどで放映され、全国にも知られるようになりました。「あんしん電話」は現在全国（松戸市以外）では約400人で運用されています。

特にNHKテレビの報道をご覧になった新松戸の幸谷町会と新松戸東町会の住民の方々が、「独居高齢者を何とかしたい」の一念で地域での活動を開始されました。これに新松戸診療所が応えてくださり、12年2月から稼働しました。

その後、主に在宅ケア委員会の先生方を中心に（図2）のごとく、市内の10町会・自治会で約400人を対象に稼働しています。それぞれの地域のボランティアや民生児童委員・相談協力員・自治会長等と連携し、主に1人暮らしの方の見守りを行っています。

開始時期	地域（対象）	パソコン設置場所	対象人数（約）
09. 9～	通院中の1人暮らしの人	どうたれ内科診療所	70人
12. 2～	新松戸東・幸谷町会	新松戸診療所	60人
12. 9～	常盤平団地	どうたれ内科診療所	65人
12. 9～	南部市営住宅	どうたれ内科診療所	20人
13. 1～	梨香台団地	梨香台診療所	40人
13. 2～	牧の原団地	どうたれ内科診療所	25人
13. 3～	野菊野団地・みなづき町会 胡録台南町会	島村トータルケアクリニック	50人
13. 10～	六実・六高台	松寿園	50人
14. 5～	日暮地区	阿部クリニック	現在準備中
15. 3～	小金原地区	いらはら診療所	現在準備中

図2

松戸市では13年から「松戸市医師会」として後援して頂きましたのでさらに拍車がかかりました。紙上をお借りし医師会執行部の先生方に深く感謝申し上げます。

### <松戸市が予算化>

これらの活動を通して、実は地域には「地域の事を何とかしたい」という方がたくさんいることがわかりました。私たちは行政と接するとよく「縦割り」だと感じ批判をすることがあります。しかし、私たちも医療や介護・福祉の専門職と地域住民の間でやはり「縦割り」になっているのではないかと感じました。

医師会の後援、地域住民やNPO団体の活動などの積み重ねで、「あんしん電話」は今回15年3月に松戸市議会で承認され松戸市が予算化しました。「あんしん電話」は行政公認の事業となり、市民への拡大もより可能になりました。

### <「あんしん電話」の普遍性と今後の展望>

私は、今後の超高齢化社会では「社会保障費が有限な時代」と認識すべきだと考えています。他方、ますます1人暮らしの方が増大し、これはアジア各国でも大問題になると予測しています。そうした時代で「費用対効果」が極めて大きい「あんしん電話」は有効な機器になると確信しています。

市内を碁盤の目のようにとらえ、その中心に「あんしん電話」を張り巡らす。その中心になるのは、医療機関・地域包括支援センター・介護保険関連施設等々です。「あんしん電話」をきっかけに、地域社会での関係づくりが活性化され、さらに地域住民と専門職が自然に交流を重ね、「地域包括ケア」体制を補完・充実させると期待しています。

### <今後の課題とお願い>

このシステムは(図3)のようなトライアングルで成り立っています。今後この3者の構成のそれぞれの拡大が必要です。つまり、①参加する医療機関が増えること、実績を積み上げて地域包括支援センターや介護保険施設に拡大すること、②ボランティアや住民組織が増えること、③独居高齢者や災害弱者の参加が増えること、が必要です。

また、既存の設置個所でカバーし得ない「市内に多数散在する1人暮らしの方」を対象に、「中央管理センター」のような中核も作り、市内全域の広範なカバーも行うべきかと考えております。

現在、地域住民側では自主的に「松戸あんしん電話協議会」が作られ活発に討論し、宣伝や講演会を行い参加者の増加と他の地域への拡大を目指しております。

これらの進展はなかなか難しいところもあります。会員皆様のご理解ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(「1人暮らしあんしん電話」の詳細に関しては、HP:どうたれ内科診療所>1人暮らしあんしん電話 <http://www.doutare.com/anshin/>をご覧ください)

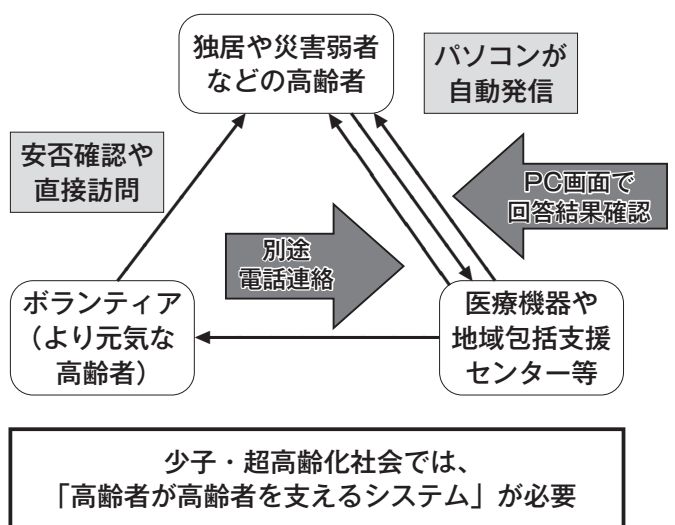


図3 「あんしん電話」の地域社会での活用